

2025年日本国際博覧会について学ぼう

目次

1. 万博とは

- (1) 万博とは
- (2) 日本で初めての万博
- (3) その他日本で開催された万博

2. 2025年日本国際博覧会の概要

3. 2025年日本国際博覧会のテーマやコンセプトについて

- (1) テーマ～いのち輝く未来社会のデザイン
- (2) 持続可能な開発目標（SDGs）達成への貢献
- (3) コンセプト～People's Living Lab-未来社会の実験場

4. 2025年日本国際博覧会の会場イメージ

5. 2025年日本国際博覧会における主なパビリオンなど

- (1) シグネチャーパビリオン
- (2) 公式参加パビリオン
- (3) 民間パビリオン
- (4) 日本館
- (5) フューチャーライフパーク

1. 万博とは

(1) 万博とは

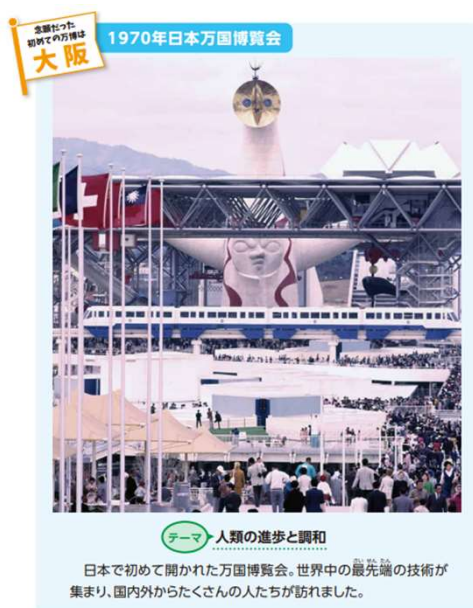
万博 = 万国 + 博覧会
(万国とは、さまざまな国のこと)

万博は、世界中のさまざまな国が参加する国際博覧会のことです、世界中が注目する大きなイベントです。

日本と万博との関わりについて見て行きましょう！

(2) 日本で初めての万博

日本で初めての万博は1970年に大阪で開催されました。これは、アジアで初めて開催された博覧会で、発展途上国も多く参加しました。科学技術の進歩を発信すると共に国際理解が深まりました。



ワイヤレステレフォン



電気自動車

(3) その他日本で開催された万博

日本では大阪万博を含めてこれまで5回開催されており開催地とテーマは以下の通りです。

- 1970年 日本国際博覧会【大阪府】 「人類の進歩と調和」
- 1975～76年 沖縄国際海洋博覧会【沖縄県】 「海—その望ましい未来」
- 1985年 国際科学技術博覧会【茨城県】 「人間・住居・環境と科学技術」
- 1990年 国際花と緑の博覧会【大阪府】 「自然と人間との共生」
- 2005年 日本国際博覧会（愛・地球博）【愛知県】 「自然の叡智」

2. 2025年日本国際博覧会の概要

名称：2025年日本国際博覧会（略称大阪・関西万博）

会期：2025年4月13日～10月13日（184日間）

会場：夢洲(ゆめしま)（大阪市此花区）

テーマ：いのち輝く未来社会のデザイン

サブテーマ：いのちを救う
いのちに力を与える
いのちをつなぐ

コンセプト：未来社会の実験場



会場位置図

3. 2025年日本国際博覧会のテーマや コンセプトについて

(1) テーマ～いのち輝く未来社会のデザイン

世界は今、大きな変化を迎えています。そして、生活を劇的に変化させる革新的な技術も進歩していくでしょう。しかし一方で、先進国と発展途上国との生活環境の格差は広がっています。

「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマには、世界中すべての人にとって「幸せな生き方とは何か？」を考え、「すべてのいのち輝く未来社会」のためにアイデアを出し合ったり、解決方法を考えたりしてほしいという思いが込められています。

(2) 持続可能な開発目標（SDGs）達成への貢献

SDGsとは、「誰一人取り残さない」ことを誓い、国連で採択された世界共通の目標（ゴール）です。世界が一つになって取り組むSDGsのめざす姿は、世界中の一人一人の幸せを考え、「いのち輝く未来社会」をめざすという2025年大阪・関西万博のテーマと合致します。

2025年大阪・関西万博が開催されるのは、SDGs達成目標の年である2030年の5年前。

世界中から人々が集まり、未来社会を創るアイデアを交換したり、新しいアイデアを生み出したりすることで、さまざまなSDGsの取組みが少しでも早く目標達成に近づくことをめざしています。



(3) コンセプト～People's Living Lab-未来社会の実験場

2025年大阪・関西万博の会場は、これまでにない新しい技術や革新的なアイデアを実験する場となるよう計画が進められています。

特に、世界中の人々と考えを台あったり、協力して考えたりできるような技術を活用することで、さまざまな人が協力して創り上げる「共創」という考え方を実現しようと準備を進めています。

この大阪・関西万博で実験する技術やシステムは、大阪・関西だけでなく、日本中、世界中へとネットワークを広げていきます。これからの社会で、たくさんの人とつながって、協力して未来を創っていくきっかけになることを願っています。

4. 2025年日本国際博覧会の会場イメージ



会場全体の広さは約155ha（東京ドーム約33個分）。高さ12m、幅30mの世界最大級の木造建築である一周約2kmの大屋根（リング）が各パビリオンを繋ぎます。



5. 2025年日本国際博覧会における

主なパビリオンなど

(1) シグネチャーパビリオン

大阪・関西万博のテーマに掲げる「いのち輝く未来社会」の姿を立体的に描き出すために、主催者が中心となり様々な参加者と共創し、「いのち」をめぐる8つの事業を企画し、テーマが実現された未来社会の姿を会場内に創出。パビリオンワールド南側の水際から中央の「静けさの森」を結ぶラインの両側に置かれ、訪れるすべての人々が「いのち」について考え、その概念をアップデートする場所になります。

	<p>プロデューサー 河瀬 直美</p> <p>いのちのあかし</p> <p>コンセプト わたしのなかのあなた、 あなたのなかのわたしに出会う場所</p> <p>展示イメージ</p> <p>© Naomi Kawase / © One</p>	<p>プロデューサー 宮田 裕章</p> <p>Co-being</p> <p>コンセプト Better Co-being</p> <p>体験イメージ</p> <p>© SANAA</p>	
	<p>プロデューサー 小山 薫堂</p> <p>EARTH MART</p> <p>コンセプト 「食」と「いのち」にまつわる当たり前を リセットし、ひとりひとりの行動を変える ヒントにあふれた市場</p> <p>体験イメージ</p> <p>© EARTH MART / EXPO2025</p>	<p>プロデューサー 石黒 浩</p> <p>いのちの未来</p> <p>コンセプト 技術と融合することにより、 いのちの可能性を広げる</p> <p>体験イメージ</p> <p>© FUTURE OF LIFE / EXPO2025</p>	
	<p>プロデューサー 河森 正治</p> <p>いのちめぐる冒険</p> <p>コンセプト 今、ここに共に生きる奇跡</p> <p>体験イメージ</p> <p>© 2023 Shoji Kawamori Office Shoji Onodera. All rights reserved.</p>	<p>プロデューサー 中島 さち子</p> <p>いのちの遊び場 クラゲ館</p> <p>コンセプト STEAM わくわく！を探す旅へ</p> <p>体験イメージ</p> <p>© STEAM Inc. & Tetraodon. All rights reserved.</p>	
	<p>プロデューサー 福岡 伸一</p> <p>いのち動的平衡館</p> <p>コンセプト “いのち”は動的平衡</p> <p>体験イメージ</p> <p>© Dynamic Equilibrium of Life / EXPO2025</p>	<p>プロデューサー 落合 陽一</p> <p>null²</p> <p>コンセプト デジタルとヒューマンという新しい身体の写真、 変形構造体建築による新しい風景の鏡、 デジタルとフィジカル二つの鏡を通して 磨き輝く命の形を示す</p> <p>体験イメージ</p> <p>© 2022 null AI R.</p>	

(2) 公式参加パビリオン

サブテーマ

「Saving Lives (いのちを救う)」

「Empowering Lives (いのちに力を与える)」

「Connecting Lives (いのちをつなぐ)」

に対応する形で、会場全体に3つのゾーンを設定し、公式参加パビリオンを配置。世界各国の公式参加者は、サブテーマ及びSDGs 17Goalsのいずれか1つ以上を選び、それぞれの立場からSDGs

達成に向けた優れた取組を持ち寄り、会場全体でSDGsが達成された未来社会の姿を描きます。



(3) 民間パビリオン

日本経済をけん引し、進むべき道筋を提案する 13 の企業・団体が、大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」に沿って工夫を凝らし、個性を活かした展示や演出を行うことにより、来場者に未来社会を体験してもらい、感動と共感を与えます。



(4) 日本館

「いのちと、いのちの、あいだに - Between Lives -」をテーマに、人間は循環の中で生かされている存在であることに気づき、SDGsに代表される社会課題を「自分ごと」として認識する契機となるような展示・体験を提供します。また、万博会場内の生ゴミを利用したバイオガス発電や、日本の先端的なCO2リサイクル技術等を活用し、日本館において一つの循環を創出し、持続可能な社会に向けた来場者の行動変容を促します。



(5) フューチャーライフパーク

「万博」では未来の技術や商品が集まり、生活が便利になるきっかけとなります。2025年日本国際博覧会では会場全体が未来社会の実験場となり、空飛ぶクルマをはじめ最先端技術を体感できます。



©Expo 2025